

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和元年 5月14日更新

事務事業名		図書館施設維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会	課長名	栗木 清智	
	施策	10	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	境 真奈美	
	施策の柱	39	生涯学習施設(環境)の整備				所属班	生涯学習班	(内線)	1505	
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10858	根拠法令				
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要(PLAN)

【事業の内容】	図書館の建物、施設の維持管理のための事業。 西合志館については、単館のため図書館で維持・管理の事務を行っている。ヴィーブル館・泉ヶ丘館については、ヴィーブルで一括で行っている。 図書館開館後19年以上が経過し、経年による老朽化により故障が発生している。 平成27年度までは、御代志市民センター、郷土資料館、ひまわり公園をひとつのエリアとし、高木管理を郷土資料館が管理、低樹木管理を西合志図書館が行なっている。また御代志市民センターを除くエリアの清掃管理を西合志図書館で行なっていた。 平成28年度より、西合志図書館とそれ以外に管理区分を分け、低木管理・高木管理・清掃管理をそれぞれで行うこととした。 平成28年熊本地震により、施設に多大な被害があった。通常の施設修繕(老朽等による)のほかに復旧工事を行った。 平成29年度からは、行政改革大綱や集中改革プランにより指定管理者制度を導入。指定管理者により施設の維持管理が行われている。
【業務の流れ】	30万円を超える修繕・工事が発生した際の業務を行う事業。
【主な予算費目】	※突発的な修繕・工事が発生した場合のみ、計上する。
【意見や要望】	急な故障により予算措置ができず、長期間使用できない場合があり、利用者から苦情を寄せられることがある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動)(DO)		31年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
修繕・工事なし		修繕・工事予定なし	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 施設維持管理費用	円	修繕・工事なし	
→ イ:			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
図書館利用者	人	→ ア: 利用者数	
		→ イ:	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
より多くの利用者に安全・快適に利用してもらう	件	→ ア: 施設維持管理上不具合・トラブル件数	
		→ イ:	
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
維持管理の事業のため不具合等の件数とした。			全体計画
経年により前年度目標と同程度とした。			~ 年度
			0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込	
①	活動指標	ア 円	26,058,000	18,868,000	0	0	0	0	0	0	
②	対象指標	ア 人	84,760	94,646	90,000	94,752	90,000	90,000	0	0	
③	成果指標	ア 件	14	3	0	0	0	0	0	0	
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	8	10,000						
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	26,050	8,868						
	(A)事業費計	(A)事業費計	千円	26,058	18,868	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	4	0	0	0	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間	1,350	0	0	0	0	0	0	0
		(B)人件費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	26,058	18,868	0	0	0	0	0	0	

事務事業名	図書館施設維持管理事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度的事後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 【前年度内容】 施設及び設備の老朽化により空調設備に不具合が発生したが、休館することなく実施できた。
	②31年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 【前年度内容】 本年度より指定管理者による委託管理に移行し、サービスを落とすことなく実施できたが、施設及び設備の老朽化が進んでおり、今後も不具合は増加するものと思われる。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 公共施設等総合管理計画に基づく、個別計画策定後、計画的な改修を実施することにより公共施設の適正管理が実現できる。ただし、施設及び設備の老朽化が進んでいるため、早期の対応が望まれる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 【前年度内容】 図書館の管理・運営に伴う事務事業が3事業あり、①施設維持管理、②システム維持管理、③指定管理者制度と分類されているが、全てが図書館（公共施設）の管理運営に関わるため、平成31年度以降は、事業を1本化する。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 指定管理者制度の導入と公共施設のマネジメントを同時に進めることで経費削減の余地あり。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】 指定管理者制度の導入により、市として最低限の人件費（モニタリング、大規模修繕等）であり削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 【前年度内容】 利用者が安全で快適に読書活動や情報収集をするための事業であり、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 【前年度内容】 公共施設であり適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

【前年度内容】 公共施設等総合管理計画に基づく、個別計画策定後、計画的な改修を実施することにより公共施設の適正管理が実現できる。ただし、施設及び設備の老朽化が進んでいるため、早期の対応が望まれる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							